

国際シンポジウム

「外国人材育成と日本語・日本語教育」について

『言語の研究』八号
二〇二一年五月

浅川 哲也

二〇二一年（令和三年）二月二三日（火）に、国際シンポジウム「外国人材育成と日本語・日本語教育」が、東京都立大学 言語研究会の主催により、オンラインで開催された。

この国際シンポジウムは、二〇一九年（令和元年）一月二二日（土）に開催された、国際シンポジウム「外国人材育成と敬語・敬語教育」に引き続き第二回目の国際シンポジウムである。このシンポジウムは外国人材の育成における日本語教育のあり方という観点から行われたもので、日本語母語話者の日本語学研究者と、かつての日本語学習者であり現在は高等教育機関で日本語教育に携わる研究者とのコラボレーションである。日本語教育において種々の問題を内包する日本語の問題と日本語教育についてシンポジウム形式で検討するという趣旨で開催された。

別掲する七名の招待講演者による講演が行われ、それぞれの講演ののち、次のような活発な質疑応答と全体討議が行われた。

（一）ら抜き言葉と日本語教育

会場参加者から、「日本語母語話者の間で行われる話し言葉でら抜き言葉は相当定着しているという実態があり、日本語教育として規範的な日本語の運用をどこまで外国人の日本語学習者に示すことができるのか」という質問があった。これに対して、招待講演者からは、「日本のテレビ番組で出演者の会話文がテロップ（字幕）で同時に流されることが多いが、出演者の音声言語のら抜き言葉がテロップでは正用に修正されている。話し言葉ではら抜き言葉だが、書き言葉では正用を使用するという意識がマスメディアの側にはまだあって、これがあ種最後の皆となっている。ら抜き言葉はフォーマリテイのある場面では使用されない。外国人の日本語学習者にはまず日本語の正用を指導し、次の段階として、日本語母語話者のら抜き言葉使用の実態についてはその背景を説明して、敬語のように指導するしかない」という回答があった。

(二) 古典語指導から見た現代語敬語の問題点

会場参加者から、「おくなさるが古めかしい」という日本語母語話者の感覚は本当なのか。一般の日本語母語話者にとつては、古典文の現代語訳自体が古めかしい役割語のようなものになってしまっているのか」という質問があった。招待講演者からは、「年配の日本語母語話者であっても、おくなさるが古めかしい」という意見がある。時代劇の台詞のように仕立てていると思われているところがある。現代日本語としても時代劇の台詞としても中途半端な状態になっている」という回答があった。また、会場参加者から、「日本語の敬語を学ぶ上では日本の古典の学習は非常に有益であるはずが、日本語母語話者の方がすでに正しい現代敬語の運用ができなくなっているのではないか」という意見が出された。

(三) 二系列二段階敬語指導案について

会場参加者から、「日本語学習者の視点からの敬語指導」という視点は斬新だ」という意見があり、また、「敬語の三分類に拠らない(二系列二段階敬語指導案)」は日本語の敬語運用の原理をシンプルにした画期的な理論ではないか」という意見があり、外国人研究者である招待講演者からは、(二系列二段階敬語指導案)が外国人学習者としての自身の日本語生活の体験から導き出された日本語学習上の実用性に富むものであることが具体例をもって説明された。また、会場参加者から「(二系列二段階敬語指導案)は日本語の敬語をよくわかっていない日本語母語話者にとつても学習法として有効なのではないか」という意見が出された。

(四) 現代中国語における日本語からの借用語

会場参加者から、「中国語のほうに、日本語からの一字漢語の借用語があるというのはいりうるのか」という質問が出された。招待講演者からは「癌(ガン)、腺(セン)などの医学的な用語は日本語から中国語に入ったものである」という回答がなされた。また、「日本語の中に漢語という語種で中国語の借用語が多くあるというのは常識だが、現代中国語の中に日本語からの借用語がこれほど多くあったとは驚きだ。中国人のほうで、この語が日本語由来であるという意識はあるのか」という質問があった。招待講演者からは、「卡拉OK(カラオケ)など、明らかに日本の現代文化から直接外来語として中国語で使われている語については、中国国内でも日本語として理解されている」という回答があった。

(五) 理工系留學生のキャリア形成支援と敬語・敬語教育に関する意識調査

会場参加者から、「かたくなに日本語の敬語を使用しない留學生がいるが、どの国籍なのか」という質問があり、招待講演者からは、「日本語の敬語を使用しない留學生に対しては、なぜ敬語が必要なのかという点についての指導に重点が置かれることになった」という指導の実態についての説明があった。これに関連して、「日本政府が抱いている、高度の外国人材」を受け入れたいという気持ちと、日本国内の企業が抱いている外国人材のイメージとの間に乖離がある。日本の企業は日本に長期間滞在しようとする外国人を受け入れたいと考えて

いるが、欧米型の人材育成は自らのキャリアアップのために複数の企業間を渡り歩くのが一般的なので、名古屋大学のように高等な日本の大学に留学して行く留学生のキャリアアップ意識とはズレがあるだろう」という外国人材育成の現場に直接関わる会場参加者の方からの意見もあった。また、会場参加者から、「文系の留学生はもともと日本の文化や日本語に関心のある外国人が多いが、理系の留学生は日本にある科学技術を学ぶために日本に留学しているのであって、日本語の学習が留学の目的ではなく、そもそもの留学目的が文系と理系とでは異なるのではないのか」という指摘があった。

(六) 初級レベルの韓国人日本語学習者の自己紹介文に見られる特徴について

会場参加者から、「韓国の人はやはり初対面の相手の年齢を気にすると思う。外国人と日本人が初対面で会話をするとき、日本人の方がフォロワーとして、韓国人の場合であれば相手が自分の年齢を気にしているのか、また、中国人の場合であれば相手が自分の社会的地位のことを気にしているのか、という付度を日本人がした方が良いのか」という質問がなされた。招待講演者からは、「そのことについては先行研究に日本人は自分の情報を示さずに相手の外国人の情報を聞き出すことで安心感を得る傾向があるという報告があり、外国人からすると質問されたくない内容のことまで日本人から質問されるというミスマッチがある」という実際の事情について説明があった。

本誌に掲載されている六本の論文は、国際シンポジウムでの招待講演の内容を元に活字化したものである。

なお、この国際シンポジウムは、「二〇二〇年度 東京都立大学 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠（研究環）研究課題」（研究課題「外国人材育成のための敬語教材の開発と研究」、研究代表者：浅川哲也）による研究支援を頂き、その研究成果として開催されたものである。

国際シンポジウム「外国人材育成と日本語・日本語教育」

1. 日程 二〇二二年二月二三日(火)

2. 場所 オンライン開催

3. 次第

一三・二五～一三・三〇

趣旨説明……………

一三・三〇～一三・五五

ら抜き言葉と日本語教育……………

一三・五五～一四・二〇

古典語指導から見た現代語敬語の問題点……………

一四・二〇～一四・四五

二系列二段階敬語指導案について——自説を補う——……………

一四・四五～一四・五五

休憩

一四・五五～一五・二〇

現代中国語における日本語からの借用語……………

一五・二〇～一五・四五

理工系留学生のキャリア形成支援と敬語・敬語教育に関する意識調査……………

一五・四五～一六・一〇

初級レベルの韓国人日本語学習者の自己紹介文に見られる特徴について……………

一六・一〇～一六・三〇

全体討議・質疑応答

浅川 哲也(東京都立大学)

浅川 哲也(東京都立大学)

竹部 歩美(静岡県立大学)

劉 志偉(埼玉大学)

馬 雲(中国・江西農業大学)

グリブ・ディーナ(名古屋大学)

李 讓珍(韓国・嶺南大学校)